

MAJOR LEAGUE BASEBALL

OFFICIAL PROGRAM \$5.00

1988 World Series



アート・オブ・ ベースボール

選

スポーツ文化評論家 玉木 正之

(4)

供が、中央の絵では少し成長してバットを振り出し、右半分の絵ではその少年がメジャーリーガーに育ち、大観衆で埋まったスタジアムでフルスイングしている。

フロリダでのメジャーの春のキャンプで、ひとり黙々とボールを壁にぶつけて日が暮れるまで子供のように遊んでいた、いや、練習をしていた若い選手を何人も見た

ことがある。「野球は子供の心のまま大人になることが許されたゲーム」(フィリップ・ロス)なのだ。(1988年)

(当時のレートで約千円)の立派な雑誌。ベーブ・ルースの特集記事やワールドシリーズの記録集など、読み応えのある内容が並んでいた。が、何より素晴らしいのは表紙のイラストだった。

絵的にはそれほど巧みとも思えなかったが、よく見ると左半分が子供の草野球の光景で、家族や友人の声援を受けてバットを構えた子

アメリカ帰りの友人が最高に素晴らしい土産物を渡してくれたのは1988年。それはロサンゼルス・ドジャースがオークランド・アスレチックスと闘ったワールドシリーズを見た際に、彼はドジャー・スタジアムで買ったオフィシャル・プログラムだった。

公式プログラムというだけでも貴重だが、百円以上で値段は5ドル